



報道関係者各位

慶應義塾

第 697 回三田演説会
大西 公平 慶應義塾大学工学部教授による講演
「力を通信する新技術～実世界ハプティクスが拓く未来社会～」 12/9 開催

慶應義塾では、「力を通信する新技術～実世界ハプティクスが拓く未来社会～」と題し、大西公平慶應義塾大学工学部教授による「第 697 回三田演説会」を 12 月 9 日（月）に開催します。

人間の五感のうち視覚、聴覚を遠方に伝える技術はテレビや電話の中に実用化されています。しかし、力を遠方に伝え、その力感覚を手元で再現する実世界ハプティクス技術はなかなか実現しませんでした。この積年の課題に挑戦し、初めて力通信に成功した講演者の経験をもとに、当日はこの画期的な新技術が未来社会に何をもたらすかを考察します。

是非、イベント欄への掲載、およびご取材をお願いいたします。

1. 開催概要

- (1) 日 時 : 2013 年 12 月 9 日（月） 14 時 45 分～16 時 15 分（開場 14 時 00 分）
- (2) 講演者 : 大西 公平（おおにし こうへい）慶應義塾大学工学部教授
- (3) 演 題 : 「力を通信する新技術～実世界ハプティクスが拓く未来社会～」
- (4) 会 場 : 慶應義塾大学（三田キャンパス）三田演説館
東京都港区三田 2-15-45
- (5) 交 通 : JR 山手線・京浜東北線 田町駅下車（徒歩約 8 分）
都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車（徒歩約 7 分）
都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車（徒歩約 8 分）
<http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>
- (6) 参 加 : 入場無料・申込不要（定員約 140 名）
座席は先着順です。満席の場合は立見または入場を制限させていただく可能性がございますので、ご了承ください。

2. 大西 公平 君 プロフィール

〔略 歴〕

1952年 生まれ
1980年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
1980年 慶應義塾大学工学部電気工学科助手
1988年 同大学理工学部助教授
1996年- 同大学理工学部システムデザイン工学科教授
2008-2009年 IEEE (アイトリプルイ-:米国電気電子学会 以下同) Industrial Electronics Society President、
2009年 電気学会副会長。IEEE、電気学会、日本機械学会 各フェロー

〔受 賞〕

2004年 IEEE ミッテルマン業績賞、欧州パワ-エレクトロニクス・モ-ションコントロール評議会賞
2008年 電気学会業績賞
2012年 産学官功労者表彰、福澤賞

〔主な著書〕

(共著) Basic Study of Appropriate Knot-tying Force in the Gastrointestinal Tract for Development of Haptic Surgical Robot, *Medical Robotics*, I-tech Education and Publishing, 2008, pp.299-pp304

(共著) Development of Haptic Forceps for Robotic Surgery, *New Robotics Research*, 2010, pp.1-12

(共著) *Motion control Systems*, Wiley-IEEE Press, 2011

3. 三田演説会について

三田演説会は、福澤諭吉を中心に小幡篤次郎、小泉信吉など 10 余人の義塾の先進者たちによって、演説、討論の研究錬磨の場として 1874 (明治 7) 年 6 月 27 日に発足しました。翌年、三田演説館が完成し、演説会は今回で 697 を数えます。スタイルや話題は変わっても、福澤諭吉の精神は時を超えて三田演説会に脈々と受け継がれています。

福澤は「演説とは英語にて『スピーチ』と云ひ、大勢の人を会して説を述べ、席上にて我思ふ所を人に伝えるの法なり」(『学問のすゝめ』十二編)と述べています。演説という概念はその当時の日本には存在せず、多くの聴衆の前で自分の意見を述べるという「演説」の実践ための具体的な方法が試行錯誤しながらの末に創造されました。経緯は『三田演説日記』などの記録に記されていますが、演説の練習を行うにあたり「決して笑ってはならない」と取り決めたというエピソードが「演説会」創始の苦心を端的に物語っています。

また、福澤は「演説」「討論」などの言葉も創り出しています。「演説」は「スピーチ」の訳語ですが、福澤の出身藩である旧中津藩で藩士が藩庁に対して意思を表明するための「演舌書」なるという書面に由来します。(「舌」という語句が俗的であったために「説」に換えたと福澤本人が述べています。)「演説」は福澤の造語ではありませんが、旧来の言葉に「スピーチ」という新しい意味と実体を与えたことに大きな意味があったとされています。さらに「ディベート」の訳語を「討論」と定め、「否決」「可決」などの用語が決められました。

* 本資料は文部科学記者会、新聞各紙社会部・文化部、イベント欄担当等に送信しております。
* ご取材に際しては、事前に下記までご一報下さいますようお願い申し上げます。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室 山崎

TEL 03-5427-1541

Email m-koho@adst.keio.ac.jp

FAX 03-5441-7640

http://www.keio.ac.jp/